



木考塾

2023/7/21 (金) 18:30~20:00

仙台市戦災復興記念館
4階第4会議室

参加費：無料

パートナーシップで解決しよう「木造建築と森林経営」 ～キーワードは S F P～



講師のご紹介

海藤 節生 プロフィール



昭和33年3月3日仙台市支倉町生まれ。

仙台市立木町通小学校、仙台市立第二中学校、仙台高等学校、東北学院大学法学部法律学科卒業後、R & Rバンド「ハウンドドッグ」ベーシストとしてプロデビュー。1984年脱退後、様々な職業に従事し、持続可能な社会づくりについて学ぶ自分探しの旅を続ける。

仙台市を活動拠点にごみの分別や環境啓発活動を行い、任意団体設立。その後、七ヶ宿町主催の交流事業参加を機に、自ら自然共生を実践するために、2007年8月仙台から移住。翌年NPO法人「水守の郷・七ヶ宿」を設立(2008年3月14日)現在に至る。仙台市を含む8市9町193万人の水瓶「七ヶ宿ダム」周辺をフィールドに「七ヶ宿・山がっこ」を主催。小・中・高等学校と連携した体験学習、担い手育成に努める。持続可能な開発のための教育に携わり、ユネスコスクール東北コンソーシアムに参加、ESD地域コーディネーターとしてグローバルな人材育成の仕組み作りも行っている。現在、NPO法人環境会議所東北理事を兼務し、みやぎグリーン購入ネットワーク事務局長として「つくる責任つかう責任」という切り口で持続可能な社会実現に向け精力的に活動している。

■ 開催日時・会場

日時2023年7月21日(金)
18:30~20:00

場所 仙台市戦災復興記念館
4階 第4会議室



■ お問い合わせ・お申込み

お申し込みは、下記メール又はFAX申込用紙からお願いします。

杜の家づくりネットワーク事務局 ((有)ササキ設計内)

仙台市青葉区八幡 1 丁目 10-14-101 Tel:022-268-6578 Fax:022-268-7164
E-mail:sasaki@sasakisekkei.co.jp URL <http://www.morinoie.net/>

■ 杜の家づくりネットワークとは

林業家、製材業、大工や左官などの職人、工務店、設計士など、木の家づくりにかかわる職能者と木の家に愛着を持つ有志のつながりです。

宮城の風土によく似合う自然素材の家、地域の森から生まれた家、木の文化を受け継いでいる家・・・そんな家づくりを目指して、考え、学び、実践しています。

下記□にチェックをお願いします

- 講演会 申し込み (杜の家づくりネットワーク事務局 F A X 022-268-7164)
- 懇親会 出席 (講演後講師を囲んでの懇親会を行います。会費5000円)

氏 名 _____ 所属勤務先 _____

住 所 _____

電 話 _____ F A X _____

海藤 節生氏 略歴

昭和33年(1958年)3月3日 仙台市生まれ

みやぎグリーン購入ネットワーク事務局長

1980年3月東北学院大学法学部法律学科を卒業と同時にロックバンド「ハウンドドッグ」初代ベーシストとして「嵐の金曜日」で芸能界デビュー。1983年「狼と踊れ」日本武道館ワンマンコンサートの後、翌年バンドを脱退し、音楽活動を停止する。その後、自分探しの旅を続け、仙台の水源地七ヶ宿町と関わるようになり活動拠点とする。

2007年家族とともに七ヶ宿町に移住。空き店舗を改装し、地域の食材とエネルギーを活用する石窯ピザ屋水守の郷を開業。水源地域の課題解決、地域活性を目的に「NPO法人 水守の郷・七ヶ宿」を設立。現在、七ヶ宿湖周辺地域を中心に環境保全活動に精力的に取り組む。また、宮城教育大学ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアムのシニアコーディネーターとして東北六県のESD(持続可能な人材育成)推進に携わる。

都市住民が森林や水と触れあいながら学べる場を提供する活動として、毎月第3日曜日に「七ヶ宿・山がっこ」を実施。この自然体験学習は、人の入らない山に民間の手を入れ、日本の山を元気にすることによって生物多様性の保全を図るもの。山林で枝打ちや木の伐採、伐採した木や自然素材を活用したものづくり、森をエネルギーとして捉え、野外炊飯や五右衛門風呂に利用する。自然の中での暮らしを体感しながら人間力形成につとめるものである。

この他に小中学校を対象とした体験学習の受け入れや講演活動を行うなど多岐にわたる活動を展開している。

東日本大震災以降は、音楽活動を再開。避難所を回り、歌を届け、チャリティーコンサートを主催し、深く関わる石巻市北上町十三浜地域に石窯を設置し、夏祭りを開催。地域の特産品のワカメを練り込んだ「十三浜ワカメうどん」を開発。

六次化に向け被災地の仕事づくりに奔走し、森を主体に東北の地域づくりに関わる。

2020年から関わってきたESD持続可能な開発のための教育の実践をライフワークとして、学校、団体等で講演活動も積極的に努めている。